

明けましておめでとうございます。室長の工藤です。

今年も青森市の歴史に関する面白いエピソードを皆さんにお伝えできるよう、日々研さん、頑張っていこうと思います。

さて、歴史資料室では、市民図書館内で年に数回展示を行っておりまして、1月12日から「むかしの教科書」と題する新たな展示を始めます。歴史資料室で所蔵する、藩政時代から教科書が国定化される明治37年(1904)までの教科書を実物とパネルで展示します。今回は、展示資料のひとつをご紹介します。

これは「教科書」とはいえないのですが、「改正増 英和对訳袖<sup>しゅうちん</sup>珍辞書 慶応3年再版」という辞書があります。黒石辺りを出身とするお医者さん(明治21年没)が所蔵していたものです。この辞書は、幕末の文久2年(1862)に江戸幕府の洋書調所の堀達之助が中心となり編さん・出版した「英和对訳袖珍辞書」の増補版です。「英和对訳袖珍辞書」は、わが国初の本格的な英和辞書として位置付けられたもので、「新ポケット英蘭辞典」の蘭語(オランダ語)の部分日本語に置き換えたものです。



「英和对訳袖珍辞書」(歴史資料室蔵)

なお、吉村昭『黒船』(中央公論社 1991年)には、堀達之助を主人公に「英和对訳袖珍辞書」編さんに取り組む様子が描かれており、私も昨日から読み始めています。

初版は、縦15cm×横19cm×厚さ4cm、そして英語の部分は活版印刷、日本語部分は木版印刷という体裁です。「袖珍」とはポケットの意味で、増補版のなかには羽織の袖に入るサイズのものもあったようですが、歴史資料室で所蔵するのは縦16cm×横20.5cm×厚さ10cmあり、縦横はほぼ初版本と同じサイズですが、厚さが2倍となっています。もちろん、ポケットには入りません。

訳語も面白く、例えば、名詞 necessary は現在の辞書には「なくてはならないもの、生活必需品」(『研究社 新英和大辞典』) という訳語が充てられていますが、この辞書には「厠 (= トイレ)」と記されています。感覚的には分かるような気がします。また、哲学・政治・主義・伝染病…といった新しい日本語もこの辞書を編さんする際に生み出されたといえます。

市民図書館での「むかしの教科書」の展示は、1月12日から4月11日までとなっていますが、この辞書は状態があまりよくないので、期間を区切って展示します。展示期間は1月25日～1月31日、2月9日～2月15日です。

よろしかったら、足をお運びくださいませ。